知事広聴：平太さんと語ろう

発言要旨

日時:平成 22 年９月２日（木）13:30～15:30
会場:藤の瀬会館

１ 出席者
・藤枝市内の中山間地域で活躍されている方　６名(男性３名、女性３名)
・一般傍聴者　約190 名

２ 発言意見

No	項　　目	県関係部局
1	定住促進のための取組 自主運行バスの運行支援 地域ブランドづくりの取組	文化・観光部　交流促進課 交通基盤部　道路整備課 土地対策課 文化・観光部　交通政策課 文化・観光部　観光振興課 教育委員会　学校教育課
2	朝比奈ちまきの普及	文化・観光部　文化政策課 教育委員会　文化財保護課
3	農業版人材バンクの提案 静岡駅でのお茶のもてなしの提案	経済産業部　農業振興課 経済産業部　茶業農産課
4	伝統行事の継承の必要性 県道焼津森線のトンネルの建設 地域活性化のための施設や土地の有効活用	経営管理部　自治行政課 教育委員会　文化財保護課 交通基盤部　道路整備課 交通基盤部　土地対策課 農地保全課
5	せとやコロッケを媒体とした地域活性化の取組 学校らしさが生まれる教育の必要性	経済産業部　農山村共生課 教育委員会　学校教育課
6	郷土に誇りを持ち観光客誘致を	文化・観光部　国際課 観光振興課
7	青年海外協力隊経験者に対するインターンシップの提案	文化・観光部　国際課 経済産業部　農山村共生課
8	中国観光客を誘致してくるので温かく迎えてほしい	文化・観光部　国際課 観光振興課
9	「ふる郷普請の会」の活動	交通基盤部　農地保全課
10	茶価の低迷と生産調整の必要性	経済産業部　茶業農産課
11	編みぐるみ「コロ茶ん」を活用した応援	経済産業部　農山村共生課
12	富士山静岡空港とのアクセスの必要性	文化・観光部　交通政策課 交通基盤部　道路企画課

３ 意見交換内容

出席者発言要旨	知事発言要旨
１　定住促進のための取組、自主運行バスの運行支援、地域ブランドづくりの取組 ・ 瀬戸谷生き生きフォーラムは、平成３年、瀬戸谷地区全世帯が会員の組織として始まった。地域には30代、40代の若者、子どもが少なく、300年以上も続く滝沢の八坂神社の田遊びなどの無形文化財の伝承が難しくなってきている。宝物である自然環境、昭和60年代につくられた活性化施設、人を生かした産業創出、農業の活性化、定住人口の維持、子育て世代の若い定住者が働くことのできる環境の整備等が喫緊の課題となっている。 ・ 地域住民の方の参加をいただき、平成17年度よりアンケート調査やワークショップ等を行い、平成18年度に「せとや未来づくり道しるべ」を作った。平成19年度はこの取組を促進するため、国のモデル事業に応募し、平成20年度から21年度にかけて定住促進、バス対策、地域ブランドづくりなど様々な取組を行った。 ・ 定住促進の取組として、空き家調査や市民の意向調査を行い、たくさんの方が田舎暮らしを求めていると感じた。小学校周辺に若者が住める地区を設定し、定住希望者に提供する取組を進めていきたいと考えているが、土地利用の規制の緩和や運用が求められている。 ・ 路線バスの撤退による自主運行バスの運行について、地域の皆さんと何回か話し合いを持ち、効率のよい経済的な部分も取り入れたバスシステムを目指し、予約制や乗り継ぎを行う形で試行した。しかし、実際に利用するお年寄りに対する配慮が足らず、利用者を少し減少させてしまった。運行計画を考える場合は、利用者の利便性をある程度優先する必要があると感じている。今後、高齢化がより進み、交通弱者の増加が予想されるため、今以上	・ 空き家を調査され、それから市民の意向を調査したところ、こういう地域に住んでみたいと思っている人がいるということがわかった。その潜在力を生かすためには、二つ課題がある。一つは道路。もう一つは自分たちのところにどういうものが埋もれているのか、地域の人たち自身の知識もしっかりしなくてはならないことである。 ・ 道路はさすがに県、国、市が協力しないとできない。今日も山の方に行ってきたが、狭いところもあり、片側１車線ずつですっと行ければお互いに交差するときに安全だと思うことがあった。 ・ バスが無くなってしまうのを嘆くのではなく、自主運行バスを出してみようという、これはなかなか立派なこと。いろいろダイヤを組めるようであるが、路線バスにかわる自主運行バスという考え方が大変良い。何とか、そういう形で地域の人たちの公共の足になるようなものがうまく回るように願っている。 ・ もう一つは宝探し。「瀬戸谷の宝」では、中学生が観光のスポットと観光のコースを、自分たちの足で歩き、自分たちで見て、自分たちの言葉で書き、全部名前も入っているのが良い。これは単なる案内ではなく、いかにわかりやすく表現するかという表現の競争でもある。１回言葉にし、書いたりすると確実に自分の中に残り、その子の啓発になる。自分の持っている力を、ほかの人の作品を見てさらに高めることができる、そういう教材の役割も果たしている。この中学生の子供たちが高校生、大学生になり、社会の一員となったとき、自分たちが多感なときに知った地域の宝物は、地域コミュニティの宝物に必ずなっていくだろう

出席者発言要旨	知事発言要旨
の支援の充実が求められている。 ・ 地域ブランドづくりでは、まず住民が地域の宝物を再認識する取組から始めた。若い人たちが地域を知り、少しでも愛着を持ってもらいたいと思い、中学生による宝物探し、ガイドマップづくりを行っていただき、「瀬戸谷の宝」という冊子を印刷、配付した。中学生が総合学習の時間に地域を調べて作ったものである。 ・ 地域特産のシイタケ入りの「せとやコロッケ」の支援や、地域ブランドの情報発信講座の開設などを行い、市内外の瀬戸谷を愛する人たちのサポートや、活性化施設の皆さんも参加、協力してくれたことがその他の地域の皆さんとの連携にも強くつながっている。同じ課題を持つ他市の北部山間地域である島田市の笹間地区の天空の回廊、アーティスト・イン・レジデンス(芸術家の滞在創作活動)との交流、活力づくりの連携を図っていきたいと考えている。 ・ 瀬戸谷を訪れていただくのは高齢の方の比率が高いが、北部地域には道路環境の未整備箇所も多く、交通環境の改善による安心して走れる道路整備が求められている。 ・ 最後に、自分たちの地域は自分たちで守ろうとのキャッチフレーズのもとに、活性化の取組の継続が図られるように、今生き生きフォーラムの組織や活動のあり方についても検討を進めている。これからも御支援、御協力をお願いする。	ということで、すばらしい試みであるというふうに伺った。
２　朝比奈ちまきの普及 ・ 岡部を恋うる会は、平成 20 年から自主グループとして、岡部の歴史の学習、そして交流都市の埼玉県深谷市と交流を持ってきた。龍勢の折に来ていただいたり、私たちが埼玉の方の歴史を勉強したり、１年おきに行き来をしている。また、２年ほど前から、朝比奈ちまきの普及を進めている。	・ 埼玉県深谷市は、こちらと全然違う。武蔵野平野の真っただ中で大きな川が流れており、水運が発達して交通の要衝である。全然違うところを知るということは、自分を知るということ。全然違うところに行くことによって、自分たちの良さがわかると思う。 ・ 何と 400 年前のちまきを発見された。

出席者発言要旨	知事発言要旨
・ 朝比奈ちまきは、地元の武将、朝比奈氏が合戦時に携帯食として持参すると必ず勝ち戦になるという縁起物として大切にされてきた。駿府城の徳川家康にも献上され、京都の御所ちまきと並び、日本の二大献上ちまきの一つとして、江戸時代の初めから全国的に有名だった。ところが元禄 15 年以降、ちまきに代わって柏餅がつくられ、幻のちまきとなった。これを復元し、地域おこしの一つになればと思い活動を始めた。 ・ このちまきの特徴として、椿の灰を使っていたので、山から椿の木を切り出し燃して灰を作ることから始めた。灰をお湯に注いで灰汁をつくり、餅米を一昼夜漬け、臼でつき、餅をつくり、笹の葉で包んだ。古文書によると、昔は菰（マコモ）に包んで戦に持って行ったそうだ。椿の灰が防腐剤の役目をし、日持ちがあるということもわかった。 ・ 朝比奈ちまきを地元の方たちで作りたいと思っていたが、ちょっと問題があった。しかし、先ほど発言者の皆さんとお話しをしたときにアドバイスをいただき、少し解決をした部分もあった。地元のものはなるべく地元の方たちで作って発信できればいいなとは思っている。 現在は歴史的にも価値がある朝比奈ちまきなので、子どもたちに伝えることが大切と考え、地元のお話の会の方に紙芝居をつくっていただいたり、今年の夏休みにちまきづくりを体験していただいたりした。また今年は龍勢花火があり、コスモス畑も満開で、ちまき井戸もその近くにあるので、散策の一つの場所になればと思い、整備している。 ・ 今後の課題は、椿の灰をつくる手間である。軽トラック一杯の椿からようやく 500 グラムがとれるので、かなりの量の椿が必要となる。また、昔は沼のちょっと汚いところに菰が生息して	しかも古文書をしっかりと読み解き、それが徳川家康に献上されたこと、武将朝比奈氏が戦に出るときに持参すれば必ず勝ったこと、そういう由緒のあるものを作られた。そこで味と材料というのが問題になるということに気がつかれた。 ・ 味については、実は、今日ごまで巻いたもの、きなこで巻いたもの、それと昔ながらのものの３つをいただいた。あんこが中に入っており、栄養があっておいしいので３個ともぺろりとたいらげた。あと３個欲しいなと思ったぐらい、おいしいかった。 ・ 保健所の規制があるため、自分たちでは作らないでお菓子屋さんに作ってもらっていると伺った。そうしたら他の発言者から、さっとクリアして、許可を取ったというアドバイスがあって話が進み、間もなくこの朝比奈ちまきは、彼女がいる地元で作れるだろうと思う。役所は苦手な方が多く、文書もわかりにくい。手続きは地域の中で教えてもらい役所へは確認のためだけに行くようにすれば話が早くて良いと思う。 ・ 材料として椿の灰が要る。軽トラック一杯で 500 グラムしかできない。しかしお茶が育つところでは必ず椿が育つので、放っておかれてどうしようもない遊休地があるならば、そこに椿を植えれば椿畑になる。椿畑は、花も楽しめ、また、ちまきを作る材料にもなるので、新しい遊休茶畑、放棄地の活用にも結びつくかなと、ふと思った。

出席者発言要旨	知事発言要旨
いたらしいが、今ほとんど見られない。代用として笹の葉を使っているが、材料が不足しておりなかなか手に入らないということも問題だ。 ・ 味の面では、古文書どおりにすると素朴さもあるが現代の皆さんの舌に合わないので、アレンジしたものを組み合わせ、名物朝比奈ちまきを、できれば全国に発信していけたらと思っている。地域にある加工施設、玉取にあるたまゆら、宮島にあるいきいき交流センターを活用しながら、歴史が深く価値がある朝比奈ちまきを後世に伝えていくことに努めていきたい。	
３　農業版人材バンクの提案、静岡駅でのお茶のもてなしの提案 ・ 朝比奈地域には、県の無形文化財の朝比奈大龍勢がある。２年に一度大の男たちが打ち上げから終わりまで、たった３分間のために約１カ月の間、寝食を忘れ、夢中になって打ち上げる朝比奈大龍勢は、私たちの誇りである。本年 10 月 16 日、藤枝市との合併を記念して盛大に開催すべく、地元ではもう既に竹取りやパラシュートづくりが始まり、にわかに活気づいてきた。本年は朝比奈第一小学校の龍勢を私たちがお手伝いをして制作することになり、子どもたちの夢と願いを大空高くへ届けるために、今からプレッシャーを感じている。 ・ 私は旧岡部町朝比奈の玉露の里の少し下流域で、構成員 30 名、茶園面積 28 ヘクタールでかぶせ茶を主体に生産する有限会社龍勢グリーンの代表をしている。この地域は急傾斜茶園が多く、防霜ファンも、乗用摘採機もなく、二人刈りでお茶を刈るにも命がけである。我が社は平成 14 年、国の助成を受けて設立し、平成 15 年から操業を開始し、今年で８年が経過した。長引く茶価の低迷の中で、何とかこの不況の中から抜け出したいと、あれこれ試行錯誤を繰り返している。 ・ 世間に余り馴染みのないかぶせ茶の	・ 農林水産大臣賞の１等賞をとり、今年は３位に終わったが、常にトップでという志が高いのがいい。お茶をＰＲするためにフランスにも出かけ、もしやる気のある青年がいるならば自分の農地を使わせてあげたいという、非常にすばらしい。感動的だ。 ・ 高校や大学を卒業しても就職口がなく、一方で農地は県全体で 12,000 ヘクタールも遊休状態である。農地全体の 20%弱が後継者がいない、あるいは都会に出ていったまま帰ってこないということで、放ったらかしにされている。そこは人を待っている。一方では仕事がないといって路頭に迷いかねない青年たちがおり、それを何とかつなげたいという思いを持っている。農業人材バンクという御提案をいただいた。これはすばらしい。 ・ 農業には農閑期と農繁期があるので、農繁期のときは何人でも欲しいし、農閑期のときには、その青年たちに技を教えればいい。私は実のなるものや花の咲くものに一旦はまると、一生続くと思っている。向き不向きがあるので強制はできないが、なるべく行政、農業者も含め一緒にそういう機会を与えることをしなくてはならない。今し

出席者発言要旨	知事発言要旨
知名度アップを狙い、創業以来８年間、全国茶品評会に挑戦し続けてきた。ようやく７年目の昨年、栄えある農林水産大臣賞を射止めることができた。本年も２連覇を目指して挑戦をし、自分たちでは昨年以上の出来栄えだと自負していたが、結果は３等に終わり、大臣賞の難しさを実感している。また一昨年秋には 10 日間、フランスまで出かけ、朝比奈茶の特色である玉露、かぶせ茶、せん茶のＰＲをしてきた。 ・ 茶業では全盛期の半分以下の所得しか得られず、現在ではイチゴとかレタス、ナス、その他野菜等を複合的に経営の中に取り入れる人が多くなってきた。茶業を含む農業者の高齢化は避けられず、現在の農業情勢の中では息子に農業を継がせる農家はほとんどいない。このままでは田舎の農業は終わり、地域を支えてきた農家がなくなり、いずれは地域も崩壊してしまうという心配が現実味を帯びてきた。 ・ 世間には就職の決まらない優秀な若者があふれており、中には農業に興味を持つ人たちも少なからずいるはず。年間雇用は無理でも、農繁期に期間雇用の機会を与え、土に触れ、自然の中で汗を流す体験の場を提供できれば若者たちの人生観も変わるだろうと思う。農業版の人材バンク等を整備できないか。もし農業を職業にしたいというしっかりとした若者がいれば、私は自分に子供もないということもあり、農地を全部提供することもいとわない。 ・ もう一つは、静岡駅に降り立った県外のお客様にお茶の香りのもてなしをぜひやってもらいたい。「旅行けば駿河の国に茶の香り」、このとおり静岡に降り立った人は皆お茶の香りで歓迎されるというような、静岡の中心からお茶のムードを高めていただきたいと思う。	なくてはならないと思っており、農業人材バンクの話はどういうふうにすれば実現できるのか。 ・ お茶の香りのおもてなしは何も静岡駅だけでない。藤枝駅もそうだし、あるいは富士山静岡空港の空港ビルもお茶畑に囲まれているので降り立てば富士山も見えるし茶の香りもすると、そのようにこれは全県下で取り組むべきことだと思う。

出席者発言要旨	知事発言要旨
４　伝統行事の継承の必要性、県道焼津森線トンネルの建設、地域活性化のための施設や土地の有効活用 ・私は昨年１年間、白藤の町内会長を務め、地域の方々と接し合いながら、地元の行事等に参加させていただいた。自治会の行事として、毎年お盆にやっていた上松明（あげんだい）が、今年は材料などいろいろな都合で中止になり、地元の人たちに残念がられているようだ。去年、もみがらの燻製を調達し、新聞にくるみ、いろんなものを詰め込んで大きな籠を３つつくった。松明に火をつけ、ぐるぐる飛ばして火をつけて、なかなか厳かなものであり、地元の地域おこしとしてやはり残した方がいいと考えている。自治会の事業として行っていたが、ぜひ保存会のような形にして、有志の方々の力で存続していただけたらと考えている。 ・白藤祭りも、地元の人たちが一丸となり、子どもたちを楽しませようと、いろいろな催しも呼び、楽しい一日を過ごした。これも後世に残していきたいと思っている。幼稚園児への七五三のお祝いも自治会でやっている。去年は葉梨神社で行ったが、一人一人名前を呼んで、お祝いをし、何かじーんとくるものがあり、なかなかよい行事だと思う。 ・私達の葉梨西北地区は、山間地区で子どもも少なく、高齢化も進んでいる。岡部に抜ける県道五和岡部線が昼間は通れるが、夜はとても恐くて通れない。この白藤の突き当たりにトンネルを通すと 200 メートルぐらいだそうだ。県の方に要望してあると思うが、トンネルを通すにはかなりの年数かかるそうだが、実現すれば、地域の方もかなり活性化になるのではないかなと思う。 ・今日、せとやコロッケをおいしくいただいた。うちの方にも「白ふじの里」という施設が昨年開設されたが、特産品もないし、みんなで力をあわせてこれ	・「白ふじの里」というすばらしい施設ができたが、今宝の持ち腐れに終わりかねなくて焦っておられる。どうすれば人に来ていただけるか。県道が恐いので、200 メートルのトンネルを開けてくれと言われた。ただ葉梨より遠い大久保が栄えているので、実はやりようがあると思う。白藤祭りもある、上松明（あげんだい）もある。それをどういうふうに生かすかというアイデア、これにありそうである。 ・アイデアマンはいる。世界を見てきている人たちの中に多い。アフリカや中南米に行くと、１ドルで人を殺したりする人もいるぐらいだから、お金がない、食べるものがない、水がない、緑がない。こちらに帰ると、もうこれは桃源郷、要するに理想郷。これをどういうふうに生かしたらいいかというと、伝統がある、文化がある、人がいる。それを何とか生かしたい意欲があるとなれば、後はどう組み合わせるかということである。 ・今日こういう集まりの中で、何かヒントをつかんで帰っていただくことが一番大きいと思う。可能性があるが、それを実現するための手立てに今悩んでおられる。これまで町内会の中心でいらしたので、今度は新しい世代や、新しい考え、新しい経験を持った人を組み合わせると、これまでやってこられたことと新しい知恵とが結びつき、きっといいものが出てくるだろう。それができると思う人がこちらにもおられるから、そう悲観的にならないように。トンネルのことも確かに承った。

出席者発言要旨	知事発言要旨
からその施設をもう少し盛り上げていけたらなと考えた。 ・ 農地の規制があり、空き地があっても家やアパートが建てられない。その規制が解け、空き地にもう少し住宅が建ち、周りにもっと住宅地が増えればすばらしい活性化になるのではないかと思う。ぜひ将来、白藤の葉梨西北地区にもコンビニエンスストアが一つぐらいできたらいいなと考えている。	
５　せとやコロッケを媒体とした地域活性化の取組、学校らしさが生まれる教育の必要性 ・ せとやコロッケのメンバーは、大久保グラススキー場の「大久保コロ茶ん」、レストランせとやっこの「やっコロ」、温泉ゆらくの「ゆらコロ」。せとやコロッケは、地域の特産のシイタケを使っており、その風味を殺さないためにソースをかけないという定義がある。瀬戸谷の人の手づくりである。 ・ せとやコロッケがＢ級グルメと違うところが２つある。まず販売チャンネル（販売場所）を３つから増やさないこと、２つ目は、生産者、農家の皆さんが作り売っていること。コロッケは、コンビニ、レストラン、スーパーでも売っているから、売るのが難しい。その中で瀬戸谷のコロッケは戦っており、売るテクニックを覚え、消費者のニーズを感じ取ることができる。自分は販売チャンネルを増やさず自分たちで売ってきたことが、せとやコロッケがＢ級グルメじゃない一つの要因だと思っている。 ・ せとやコロッケは６次産業の最先端を行っており、瀬戸谷の活性化施設で集客に成功していると思っている。このテクニックを使えば、基幹産業の農業にも役立っていくと思う。 ・ ３つのコロッケが生まれたのは４年前。毎月開いたせとやコロッケの会という勉強会の中で「瀬戸谷のコロッケを売るのではなく、コロッケのある瀬戸谷を売る」というコンセプト、目標	・ 発言者には哲学があり、瀬戸谷という町を人を愛している。そういう人たちがつくっているコミュニティ（地域）を育てていくということがポイントで、その媒体としてコロッケを使っている。だからコロッケは大使だと言われることに特徴がある。瀬戸谷の山林とお茶とシイタケ、この３つが重要で、コロッケを売ることが目的じゃないというのが良い。 ・ 藤枝の駅前の居酒屋とコロッケの対決なんていうのは前代未聞。どっちが勝っても負けても、思いっ切り戦っていただきたいと思う。参加するところに意義があり、負けたら相手の宣伝をすることになって、相手の実になること、相手を愛すること、交流を深めていくことになる。こういうキーパーソンとなる人は多くはいないが、必ずいる。そういう人たちを上手に生かすことが大事。 ・ 発言者はパナマに行ってこられた。厳しいところに行くと自分に出会う。自分は何物かと。もう毎日自分が日本人であることを知らされざるを得ないし、コミュニケーションしようと思ったら、自分のことを言わざるを得ない。相手のことがわからないと、また話もできないから、そういう苦労を２年もして帰って来られると人間が大きく成長する。 ・ 人づくりで学校を巻き込む。コロッケがおいしく食べられるようなお皿を

出席者発言要旨	知事発言要旨
が生まれた。コロッケを交流のアイテム(道具)として使いながら、ここ瀬戸谷の親善大使という形で使っている。 ・ 一番初めに、せとやコロッケの魅力を広めるため、小学生、中学生、幼稚園との交流に持っていった。知事に食べていただいたあのお皿は、みんなが盛り上げて作ってくれたもので、子供からせとやコロッケを支えている。 ・ 次に、居酒屋さんと交流したいと思い、グルメ対決を申し込んだ。せとやコロッケ対居酒屋グルメ、ポスターも作った。せとやっこのおばちゃんたちが勝ったら、居酒屋さんたちに瀬戸谷のグルメをつくってもらう。せとやっこが負けたら、居酒屋のこのファッションで１年間朝市で販売する、そんな究極の戦いをやって、交流をくり広げた。これを受けてくれた藤枝市場さんは、今、静岡産、藤枝産ではない、瀬戸谷産の枝豆や卵など、瀬戸谷というものを売ってくれている。ほかの居酒屋さんも「瀬戸谷産の」という形が増えている。瀬戸谷を売るために頑張っているところが少しずつ根付いている。 ・ 自分たちだけで考えるのではなく、外の人間、若い人間、また違った業種の人間からアイデアをもらい、どんどん成長している。本当に瀬戸谷の人は輝いている。その輝きが、観光につながると思う。光輝く物・人を見に行くのが観光であり、光という字があって、観る。だから瀬戸谷は観光にもなり得ると思う。 ・ せとやコロッケをスーパーで扱わせてくれないかという話が来ているが、コロッケのある瀬戸谷を売る、コロッケを自分たちで売る勉強しているという部分があるので、100 人で１個のコロッケをどうやったら売れるかを考えることを本当に大切に思っている。 ・ みんなでやることがすごく大切で、その中に私は今、瀬戸谷の中学校を巻き	子どもたちに作ってもらった。本当の生きた教育というのは、地域の大人たちが自信を持って伝えることができることであり、加えてそれが仕事につながるというのは後継者をつくることであり、すばらしいことである。 ・ 後継者をつくる時でも外に出す。かわいい子には旅をさせる、自らも旅をする。結果的に地域に戻せるだけの力を持っていればいい。戻ってきたときにしっかり働けるシステムをつくっていく。 ・ 差し当たって現金がなくても、ここにコロッケをつくるための材料はある。物々交換すればいろいろなものを分けてもらえるから、しばらくはここで腰を落ち着かせる。水と緑と土を大事にしない文明は滅ぶ。ここは、それを大事にできるような条件がそろっている。 ・ 自分たちのものを知るために他を知ること。自他を知ることによって自己がよく見えてくる。そう思った。

出席者発言要旨	知事発言要旨
込んでいる。せとやコロッケの会は、中学校の時間で毎週１時間授業を持っているが、農業の体験とか技術が一番人気で、将来、農業を職業にしたいという人が４人もいた。そんな子たちを育てたいと思うが、ゆとり教育の障害が出ている中で、学校らしさが決まる総合の時間と選択の時間が減っている。学校らしさがあって地域らしさが生まれると思うので、やはり教育はものすごく大切になってくると思う。 ・ 瀬戸谷に子どもたちが生活できる、働ける環境を自分たちが作っていかなければならないと思っている。教育の部分と含め、これから県の皆さん、市の皆さんと一緒に考えながら歩いていきたいと思うので、よろしくお願いしたい。	
６　郷土に誇りを持ち観光客誘致を ・ 私は中国の出身で、現在静岡市に住んでいる。大学は静岡産業大学の情報学部で、藤枝と縁がある。今は藤枝市役所で国際観光交流の仕事をしており、瀬戸谷地区や岡部の玉露の里などを回っている。 ・ 一番感じたのは、中山間地域の空気が新鮮、茶畑が壮観、山の奥なのにおいしい料理を提供できるレストランがあること。中国の山の奥にも観光地があり、レストランもあるが、料理はお腹さえいっぱいになればいいようなものばっかり。本当においしい料理を食べて、びっくりした。 ・ 今年の５月、大茶樹のお茶摘み体験もし、７月に大久保キャンプ場で行われた夏フェスタで三国流し麺をいただいた。来場の皆さんに喜んでいただき、私も非常に楽しい思い出をつくることができた。こんなに楽しく、おばちゃんたちがすごく生き生きしているのに、若者がいないとよく聞く。若者がいないから活気も足りないと。でも、外国出身の私にはちょっと理解できない。中国ではすごい田舎でなければ、若者が足りないことはない。	・ 郷土愛を育てるために県に何ができるかと問われれば、私は 3776 訪中団に行ってくださいと答える。数千年の歴史がある中国始まって以来、初めて中国の持っている技術、産業、活気、都市、すべてを上海万博に集約しており、それを見に来てくれと言っている。 ・ 中国の大使から上海万博を成功させるため、ぜひ日本の友人の皆様来てください、と言われた。そのときに行くと言ったのは47都道府県の中で唯一、ここ、ふじのくにだった。富士山の高さ3,776人を送ると言っている。3,776人で行くということは、１人で 1,000人分、すなわち377万６千人静岡県民の代表として行くということだ。皆さん行ってください。そうすると自分達の地域は何もないと思っていても、そんなことはないということがわかる。実は中国人にとってものすごく魅力的だと言われる。 ・ 日本人や海外の人がイギリスに来て訪れるところはロンドンではない。それは湖水地域と呼ばれる湖水があるだけで、泊まるところがある場所であ

出席者発言要旨	知事発言要旨
・私の実家の近くに瀬戸谷地区とよく似たところがある。周辺の村人の本業は農業だが、近くに山と森とお寺があることから、副業として観光客を相手に農産品、手づくりの記念品、地元にちなんだ商品を販売している。それで一定の収入が得られ、観光客も来るから静か過ぎることはない。 ・瀬戸谷は、山と森と歴史のある神社、茶畑、温泉施設ゆらくもある。また、瀬戸谷地区ではないが歴史のある温泉、志太温泉もある。食事するところもあり、観光できる条件が全部そろっている。中国人の私にとってとても魅力的で、利用しないともったいないと思う。確かに日本中探せば似たようなところがいっぱい出てくると思うかもしれないが、宣伝の仕方と地元の方の意識が勝負の鍵だと思う。藤枝市民は自分のふるさとの良さに気づいてないと思う。探せばいっぱいある。発掘することだ。現在あるものを活用し、さらにもっといいものにする。自分や自分が住んでいる町に誇りを持っていなければ、外の人にはアピールすることもできない。 ・観光地をつくることは、後世に財産が残ることだと思う。今頑張れば観光客も来るようになる。そうなれば、雇用のチャンスを増やすことにもつながり、生き生きした山間地域を取り戻すこともできると思う。まず自分のふるさとに誇りを持ち、観光客を誘致し、生き生きとした中山間地域を取り戻せるように、藤枝市民全員に参加してもらって頑張ってもらいたい。 ・知事にお聞きしたいが、郷土愛を育てるために、県が協力していただけることは何かあるか。	る。あるいはコッツウォルズという羊が草を食む牧場がある田舎である。しかしそこには宿屋があり、きれいな景色、きれいな水、緑がある。人は親切、そしてしっかりした交通網と案内がある。その中で人々は普通に生活しているだけで、自然体、それがいいのである。 ・瀬戸谷、葉梨、岡部朝比奈、いろいろな地域のその生活のままが、人々がいいなと思うところだということを知ることが大事。そのためには相手を知ればいい。誰が来るかがわかっていれば、それ相応のおもてなしができる。相手を知らないで、私のところにこんなものがある、見てほしいと言っても、それは計画性がない。本当に郷土愛を知ろうと思えば、違うところに行くということが大事。 ・日本海側の小松空港を通した加賀、あるいは九州、北海道へ行く。若干お金はかかるが勉強、自分に対する投資だと思うこと。そして北海道と私のところとは違う、日本海側はお茶ができない、私たちのお茶を持っていってあげれば喜ぶかなというようなことで、相手との違いがわかる。 ・また鹿児島に行けば、３月の初旬から茶摘みをし、３月の中旬に初競りがある。ここと戦うのは無理で、静岡県は八十八夜、５月２日がいい。５月は新緑の季節であり、萌黄色の新しい生命は体によいという。私は藤枝のお茶が一番いい、広く言って静岡のお茶が一番いいという自信を持っている。早く作ろうとして、結果的に凍霜被害で非常に厳しい思いもした。自然体がいい。いろいろな種類をつくることも大事だが、風土に合ったものをつくることが大事だということを知るためには、やっぱり他の地域に行って、自分たちの風土のことを改めて見直すことが大事。結局自分の住んでいるところが一番いいということを発見するために、ある意味で自分を知るために行く。

出席者発言要旨	知事発言要旨
	・ 私は、このような国際派の方の言われることは、本当に真面目に聞いていただき、今年は中国に行っていただきたいと思う。そしてふじのくには世界の中のふじのくにであるとするためには、世界を知っていることが大事。だから少なくとも自分たちが行けなくても、御家族の方とかでもいい。
７　青年海外協力隊経験者に対するインターンシップの提案 ・ 大久保グラススキー場キャンプ場には、三国流し麺のホームページを見て、香港から直接来た方がいた。すごくうれしかった。大久保の方々は中国語のレッスンを受けていたので、すぐ答えていただき、中国の方に大変喜ばれた。うちの場合、外国人が大変多いが、大久保の皆さんは、例えばイスラムの方だったら豚を食べられないなどの配慮をしてくれる。それはバングラデシュ、インドネシアのジャワなどのカレーフェスティバルを経験しているからである。 ・ 物を売るのは難しいが、せとやコロッケの陶芸センターが一番成長していると思う。陶芸を売るのではなく、思い出を形につくることをどう演出し提供していくかを考えたところ、多くのマスコミが取材に来た。本質が何なのかを考えると、物というのは売れてくると思う。 ・ 私にとって青年海外協力隊で海外に行った経験がものすごい財産になっている。海外に行ったときに、自分をしっかり伝える力がないと相手に信用もしてもらえないし、聞こうとする力、また伝えようとする力がすごく大切になってくる。こういう人材を私はほかの会社にとられたくない。瀬戸谷とか、こういう活性化施設にとどめてもらいたいので、今日は農林事務所の方と、後日は、ＪＩＣＡの方と話すことになっている。青年海外協力隊の経	

出席者発言要旨	知事発言要旨
験者に対するインターンシップなど静岡で初めてやってもらえれば、すごく画期的なことになるし、また財産になると思う。何とかそういう機会を作っていただければと思う。	
８　中国観光客を誘致してくるので温かく迎えてほしい ・ 上海万博で静岡ウイークがあり、藤枝の観光パンフレットを持参し、藤枝の特徴やいいところを、上海の中国最大手の旅行会社の会長さんに説明したところ、大変興味を持っていただき、これからの藤枝の観光事業の発展につながるようなお話をいただいた。 ・ 来月、また市長と杭州に行くが、何とか努力して、もっと成果を出せるように頑張ってくる。これから中国の観光客も瀬戸谷地区にも来るかもしれない。その際、皆さんぜひ温かく迎えていただけたらと思う。	・ 浙江省とは28年間の友好関係があり、人口は5,000万。中国は礼儀の国であり、こちらが3,776人で、浙江省は人口はこちらの10倍なので、37,760人を送らなければならないと考える。 ・ そのためには漢字とアルファベット、ハングル、そして中国の簡略化した漢字を表示する。中国の方も、西洋の方も、あるいは韓国の方も歓迎するということが、その標識を見ればわかる。そのように国際化していくことが身近なところからできると思う。
９　「ふる郷普請の会」の活動 ・ 本郷地域で行っている「ふる郷普請の会」は国事業の農地・水・環境保全対策事業と、一社一村しずおか運動に参加、昨年静岡県知事賞もいただいた。 ・ 地域を守ることが大切で、自分たちで働く、自分たちの村は自分たちで守ろうという意識を作ることがすごく大切だと思っている。29日にフォーラムで、三島のグランドワークを研修させてもらった。本当に皆さんが一生懸命で、自分たちの町は自分たちで守っていくという気心を感じた。指定は来年度もう１年だが、その後も何とか続けていきたいと頑張っている。	
10　茶価の低迷と生産調整の必要性 ・ 私は茶業をやっている。茶業は大変厳しく、私は以前から生産調整しなくては大変なことになると言っていた。今年は県が生産調整してくれ、大分茶価がよくなるかと思ったら、去年よりまだ悪いような状態である。	・ ４月20日前後に初競りがあって、１キログラム当たり１万700円ぐらい。それが翌日１万円を切る、9,000円台、8,000円台、7,000円台と何か富士山を降りていくみたい。５月の初めに一番茶が出た。それでも落ちていく。茶商を少し増そうか、富士山の頂上に３

出席者発言要旨	知事発言要旨
	つのこぶがあるように、そう簡単に降ろさせない工夫をどうしたらいいか。 ・ 実際生産している量よりも需要量が、つまり消費される量が少なく、生産調整には現実的根拠がある。 ・ 手元に大井川の水のボトルがあるが、ラベルは日本語でしか書いていない。中国語やハングルなど外国語でも書いてあれば、英語圏、中国圏、韓国圏でも売れているのかなと思う。そういう工夫は茶葉それ自体の工夫ではなく、どのように人の心に訴えるか、ちょっとした心遣い、気遣い、工夫、これがあると一気に国際化する。お茶はカテキンがあり、体にいいとかいろんな科学的なことも出ており、健康志向の世界の人たちにとって必ずお役に立てる。 ・ 生産調整をして、日本の需要量に合わせるだけではなく、日本のお茶は世界を動かすだけの力があると思っている。場合によっては生産調整もするが、私は茶に対してはまだ望みを捨てていない。 ・ ここ数年、茶価が落ちている。私は鹿児島とも協力して、日本茶として売っていく。向こうの人たちの目が肥えてくる、あるいは舌が肥えてくると、やっぱり静岡茶だねと、富士山のある静岡県でつくられたお茶が一番おいしいと、彼らもそういうふうにわかってくれるに違いないという希望を持っていきたいと思う。
11　編みぐるみ「コロ茶ん」を活用した応援 ・ コロッケのキャラの編みぐるみ「コロ茶ん」を作った。これを有名にして、空港もできたので、世界から「コロ茶ん」を見に、食べに来てもらうようなことができないかと思っている。観光にみえた方に買っていただき、その収益金で「コロ茶ん」 の絵をバスにラッピングし、「コロ茶んバス」 を走らせてほしいと思う。究極の目標は、そのバスで富士山静岡空港までお迎え	・ 「コロ茶ん」をつくって、売れたらそのキャラをバスに張り、単に自主運行バスというのではなく「コロ茶んバス」 となるとかわいくなる。そのキャラにひかれてデザインしたというから、循環がいい方に向かっていく。好循環を作っていくことが大事だと思う。

出席者発言要旨	知事発言要旨
に行けたらいいなと思っている。もし知事も県として何か協力いただけることがあれば、ぜひよろしくお願いしたい。	
12　富士山静岡空港とのアクセスの必要性 ・ ＪＲ新幹線が富士山静岡空港の下を通っているのになぜ駅ができないのか。バスで空港まで行くと途中事故があったら間に合わなくなるという不安がある。 ・ 瀬戸谷からもモノレールがつながっていけば一番いいが、そのせいでバスがなくなると老人は困る。アクセスができることによって老人が活発化されていく。知事が一生懸命頑張ってくれているので、みんなで知事を応援しよう。	・ アクセスはとても大事で、大井川のところに藤枝から橋を渡って空港に行く、その橋をつくって、その道をつなげたい。そうすると藤枝駅から 25 分ぐらいで空港に行けるようになり、一番近くなる。今しばらくアクセスについてはお待ちください。 ・ 時間どおりに着く鉄道、電車はやはり必要。新幹線新駅はいずれ確実にできる。十数年たてばリニア新幹線が開通し、「のぞみ」がなくなるからだ。ただ藤枝とのアクセスをどうするかは、差し当たっては「コロ茶んバス」を考えればいいかなと。
	まとめ ・ 今日は６人の方々から非常に前向きな話をしていただき、また会場からもそれぞれ知事賞をとられたり、現在の茶の現状について論点と提言もいただいた。またコロッケを上手に生かした未来志向の御提言もあり、大変勉強になった。どうもありがとうございました。